

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	12-058	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Low to moderate alcohol intake during pregnancy and risk of psychomotor deficits. 妊娠中の少量から中等度の飲酒と子供の神経運動学上のリスク		
執筆者		
Bay B, Støvring H, Wimberley T, Denny CH, Mortensen EL, Eriksen HL, Kesmodel US.		
掲載誌		
Alcohol Clin Exp Res. 2012 May;36(5):807-14.		
キーワード		
少量から中等度のアルコール飲酒 ・ 妊娠中 ・ 5歳児の神経運動学上の欠損		
要旨		
目的： 妊娠中の少量から中等度の飲酒が、児の5歳時点の運動機能に対して影響を与えるかどうかを調査した。		
方法： デンマークの国立出産コホートから母親の妊娠中のアルコール調査に基づいて抽出した685人の女性と彼女たちが出産した子どもたちを対象に前向きに追跡した。5歳時点で"Movement Assessment Battery for Children" (MABC)(協調運動の評価指標の一つ)を実施した。両親の教育・母親のIQ・妊娠前の母親の喫煙・テスト実施時の子どもの年齢・子どもの性別が中核的な交絡要因と考えられた。妊娠前の母親の過度の飲酒の有無・母親の年齢・母親の妊娠時のBMI・家族環境・妊娠後の両親の喫煙・母親の聴力と視力もまたモデル調整した。		
結果： 妊娠中の平均飲酒量が少量から中等度のレベルの母親の子どもと禁酒した母親の子どもとの間には、運動機能の差を認めなかった。		
結論： この研究において、妊娠中に少量から中等度以下の飲酒を行った母親から生まれた子どもと禁酒をした母親の子どもとの比較では、5歳時の時点における子どもの運動機能には、差が認められなかった。		